



### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

### 《講演要旨》

# 対立から協調の精神へ

## 繁栄はユネスコの原点に立つて

日本ユネスコ協会連盟 事務局長 竹本忠雄

ひところ、ノストラダムスの大予言、即ち、一九九七年の七のつく月に地球が破壊する、という結論を出した本がわれわれのあいだに爆発的に読まれたことがあった。このことに代表されるように、現代のこの地球上に「終末観」に立った様々な認識があることは、誰もが認めるところである。

この終末観は、古くは、西洋における宗教上の悪魔の思想、偽神論に端を発するが、これを決定的にしたのは、やはり二度の世界大戦による影響ではないかと思う。第一次大戦は、ヨーロッパにニヒリズムを引き起こし（日本人にはこのニヒリズムは、全く理解しがたいものであるが）、第二次大戦における実存主義的ニヒリズムは、そのことをもっと深刻にした。それは、人類が続く限り進歩しつづけるというこれまでの西洋の考

え方に対する反動であり、人類は、進めば進むほど墮落していくのではないか、という考えであった。ヨーロッパ人が、太平洋戦争、原爆投下という事実以上にヒトラーの虐殺ということに、即ち人間の悪魔的部分に新しい関心を寄せるようになったことはその証左でもあろう。進歩だけを重視したヨーロッパのこれまでの思想は、即ち他の文明、他の考え方に対する無理解そのものであり、その反動としての終末論ではなかるうか。

この関心と反省がユネスコの創設を促したものであり、ユネスコは、これをさらに拡げて、国際理解ということによって、他の文明に対する考え方の足りなさが戦争を引き起こしたという反省とその思想の普遍化をおし進めようとした。東西間の理解、西洋中心の考え方から東洋のすぐれた文明の見なおし

がその出発点でもあった。これが「終末」に対する戦いの認識のはじまりでもあった。現代において、食糧と人口の問題は深刻な終末的危機の認識である。この問題は、地球的視野から危機に対する闘争を考える必要がある。また、政治上の均衡もいつまでも続くかという危機感がある。これからの世界は、ナショナルに動くだけでなく、グローバルに動く必要があり、このグローバル的視野をとり除けば、ユネスコの立場がなくなる。無理解が戦争を生むという考えもグローバルな考え方である。

今や世界は「終末か」「繁栄か」の選択のときなのである。真にわれわれがグローバルな立場で英知を結集すれば繁栄があり、さうした英知がなければ永遠に破壊の道をたどる。人類の繁栄は、英知よりも政治によ

って、あるいは弱小国の協調精神よりも強大国のパワーによって結束されるという考え方もあるが、最近では、政治力学のバランスは大きく変化してきており、希望をもってよいと考える。その方向としては、次のような考え方に立ちたい。

第一に、場の意識である。政治体制を越えての対話、先進国と発展途上国とのギブアンドテークからコ・アクションへの転換——など「対立から協調へ」の精神が必要となる。

第二に、文明を滅ぼさないという努力である。滅びた文明の復活と相続も必要であらう。

第三に、物質的な価値よりも精神的な価値を重視することである。単に日本だけの問題でなく、物質的繁栄を求めている発展途上国の人々にとっても大きな問題である。

世界中に多くの不信感が強まっている中で、これを取りこえるためには、心の中に平和のとりを築くというユネスコ精神の原点に立ち帰る以外に道はないことをとくに強調しておきたい。

（これは、七月十七日に行った七月例会の「終末か繁栄か——二十一世紀へのチャレンジのとき」と題して行われた同事務局長の講演要旨です）

当協会の永井滋郎会長は、さきごろ、初等・中等教育段階における日米相互理解のための教育に関する共同研究を目的に、約一カ月間、建国二百周年祭の最中の米国へ出張していました。研究会の今回の米国出張は、昨年に引き続きのもので、その研究成果は、今後の国際理解教育を推進していくうえで大きな指針となるものです。ここでは、その米国訪問のみやげ話を簡単に紹介します。

### 日本理解に 俳句を教材

第七回日米文化教育会議の決議に基づいて、日本の文部省と合衆国の連邦政府教育局とが、三年計画で取り組んでいる共同研究「初等・中等教育段階における日米相互理解のための教育」の線で、わたくしは、昨年（七月・十月）に引き続き、本年七月から八月にかけて約一カ月米国ノースカロライナ州に出張しておりました。

今回は、過去一か

年間に、日米双方が相手国理解のために開発した研究物を、たがいにもちよって批判、検討し意見の交換を行なうことを目的としていました。日本側専門家五名（筆者が团长）米国側専門家

## 国際理解教育日米合同会議に参加して

### 広島ユネスコ協会会長 永井 滋郎

九名が、七月十二日から二十三日のあいだ、合衆国でも名門校の一つに数えられるデューク大学（ダラム市在）の「国際研究センター」を会場とし充実した討議をもちました。日本側は、小・中・高等学校の先生がたが米国についての授業をする際に参考となる指導資料を作成し、会議のためにはその英訳を準備しました。米国側は、日本理解のために新しく考案された具体的な教材を提出しました。

米国の教材の中にはたとえば、俳句をとりあげて日本の文化の特

色を生徒に理解させるものや、「成功ゲーム」という「すぐろく遊び」に似たゲームを子どもにさせることによって、日本の社会のしくみやその特質（男女・親子・夫婦関係、結婚・進学・

就職問題・職場での人間関係や社会的成功の諸条件等）を理解させようとするものなどがあり、非常に興味ある教材例が多くみられました。

私たち日本側は、これらの教材の長所、欠陥、誤りなどを遠慮なく指摘して、卒直な意見をのべ、また、アメリカ側からは私たちの指導資料に対し貴重な示唆を受けたのであります。

### 建国の歴史に ふれて感銘

デューク大学のあるノースカロライナは、元来、タバコ、大豆、とうもろこしなどの農業を主とする保守的な州でしたが、

近年、新しい活気を見せています。合衆国の西岸、カリフォルニア州南部からテキサスなどの南部諸州を含んで東岸のノースカロライナ州にわたる「太陽地帯（サン・ベルト）」は、最近宇宙産業、軍需産業、航空産業、重化学工業など新しい産業の基地として、経済が繁栄し、人口も急増して、米国民総生産の半分以上を産出しています。

ノースカロライナ州でも、州都ラレー、ダラム、グリーンズボロー、ウインストン・セイラム、シャーロットの五都市が集中する「三日月地帯」は、めざましい発展をしています。これら南部諸州では、民主党が有力

であり、北部共和党に地盤をおくフォードと、南部民主党を基盤とするカーターとが、次期大統領をめぐって展開している一騎うちも、このような経済的背景を考えると興味深いことではす。

新しい大統領が選ばれる今年には、合衆国建国二百年に当たっており、各地で記念行事が催されています。私たちも、会議終了後、バージニア州へ足をのばし、州都リッチモンドや、史蹟で名高いウイリアムズバーグ、独立戦争最後の古戦場ヨークタウンなどを訪れ、植民地時代や建国の歴史にふれて、少なからぬ感銘を受けました。

原爆被災の科学的資料をもとに世界平和を訴え、核兵器の廃絶と全面軍縮を要請するため、荒木武広島市長（本会名誉会長）と諸谷義武長崎市長、大内五良広島県医師会会長が十一月二十五日に羽田空港を立ち、初めて国連本部を訪問します。被爆者や広島市民が長いあいだ広島市長の国連訪問を念願していただけに、大きな期待がもたれています。

### 核廃絶と全面軍縮を要請

#### 荒木市長ら国連を訪問

への出席のおっせん——などを要請するとともに、ユネスコが被爆体験の継承を目的として、日程も含まれています。資料集や映画を作成し、平和教育の国際的シンポジウムの計画（本会常任理事）も同行します。

原爆被爆者との  
意見、ワシントン市長、ニュー  
ヨーク市長など

荒木市長らは、国連を訪問しと実施を行なうよう要請することとなりました。

また、国連訪問とともに、米  
国公文書館、ウイリミントン大  
学記念文庫の視察、米国在住の

## 体験継承の必要性を認識

### 第二回青年部原爆講座を終えて

青年部では、去る七月、第二回原爆講座を広島市青少年センターで開催しました。これは、一月から二月にかけて開催した第一回原爆講座に続くもので、今回は、とくに、広島市青年連合会、広島市青年団体連絡会議との共催で行ないましたが若者たちのあいだに少しでも輪



外国の言葉を知っているというよりはいいことだと、その効用を疑う人はおそらくあるまいし、全く常識的なことである。

戦後、多くの人が外国語、とくに、話すことに力を注いだ。たしかに、外国語を覚えるには、大変な努力が必要である。またその努力をしても、実際その言葉が話す「場」がないとその効果があらわれないものである。これが、エクスポージャー（外国語使用社会に投入されること）の問題である。日本のよう

をひろげて原爆の問題について学び、話し合うことができたことは大きな進歩であると評価できると思えます。また、初の試みとして、留学生を対象にした内容を組み込んだことも特色のひとつであったと思います。

この講座では、現在かかえている問題を専門的にみつめなおすことに日本人一色、日本語一色の社会では、よほど特殊な仕事でないといふ毎日外国語に接するところは極少である。ために、修得した外国語が段々と精彩を失い、せつかくの知識が枯渇しがちで

## 外国語を知るといふこと

### 小倉 馨

ある。

そこで、その「場面」を考えてみると、明治開化以来、日本では国富論に基いて、先進国に追いつくことで外国語を一生懸命に勉強した。蘭学事始を取りあげてみても、まず、日本には

すことを大きな柱とし、◇胎内被爆の障害の実態について（文沢隆一氏）◇ヒロシマ原爆について（留学生対象、小倉馨氏）◇原爆と報道（島津邦弘氏）◇石田原爆訴訟のめざすもの（石田明氏）◇高校生の原爆意識と平和教育（森下弘氏）——を内容とした。

講座の最後には、二十五名の青年の参加のもとに討論会をもちました。今までは原爆について話し合いの場がなかったのに対し、この原爆講座が大変参考になった、八月六日は願いに

どまることなく、願いから声になる方向を考えることが重要ではないか、戦争のこわさ、核のこわさの体験の継承は必要であるが、それだけに終ることなく、現代の世界情勢にも目を向け、正しい報道を知り、それにこたえることができる人間にならなければならぬ、原爆の悲惨さを訴える前にイデオロギーをこえる必要がある——など活発な意見が出されました。

わたしたちひとりひとりが、平和について正しい意見をもちます手の届くところからコツコツ

ブームを招いた。今一つの現象は、日本が経済大国として世界の人々と交流しはじめ、一時は先進国を追い越したが、勤勉のお蔭で先進国の仲間にはいった。今後とも対等にわたり合うため、また、次に来る発展途上国を指導する意味からも、外国語を使用する「場」が身近かにも、そして他の地にもふえることは必至である。

外国語は、読解するにも、話す場合にも、それぞれの人によって重点は違うだろうが、世界を大きく広げる役を果す点では誰も否定しないであろう。（常任理事・広島市渉外課長）

## 会費の納入を

広島ユネスコ協会事務局では昭和51年度の会費を納めていない会員に対して、早く納入していただくよう呼びかけています。会費は、協会活動の重要な財源であり、このままでは、活動の停滞も予想されますので、未納のかたは早急に納入していただくようお願いいたします。

今年度の会費は、ユネスコ新聞購読料を含めて 3,000円です。広島銀行普通預金口座「246846広島ユネスコ協会会長永井滋郎」へ、お近くの本店、支店にて振り込んでください。

ツ活動を続けるべきで、平和を願う広島姿勢はどんなことがあってもくずしてはいけません。その意味において、今回のこの講座のもつ意義は、今後の青年の活動の方向性を見出すひとつの手がかりになったといっても過言ではないように思われました。（青年部・深瀬文恵）



### 十一月二十・二十一日にユネスコ青年セミナーを開催

広島ユネスコ協会では、十一月二十日、二十一日の二日間、第三回ユネスコ青年セミナーを府中町青少年文化センターで開く。これは若い人たちに、ユネスコ活動に深い関心をもってもらい、生活に根ざした国際理解・国際協力のあり方を考えてもらうことをねらいとしている。内容は、海外取材フィルムの鑑賞、パングラデシユ留學生によるパングラデシユの現状についての講義、広島大学中原豊教授の「国際交流を進めるには」と題する講演、自由交歓、レクリエーション、スポーツなど。

### 中央図書館が国際資料サービス

広島市中央図書館は、現在、国際資料、ユネスコ関係資料の整備を行い、その情報サービスを行っている。同館のこの事業は、着手したばかりであるが、関係各方面に協力を依頼して、資料収集に努力しているところであり、今後の充実ぶりに期待が寄せられている。

現在のどころ、パンフレット類を一階の展示ホール談話コーナーで、その他を三階参考閲覧室で閲覧に供している。ぜひご利用されたい。

過去二回のこの催しは、青年のユネスコに関する認識を高めたり、青年の輪をひろげる役割りを果たしたりして、青年部活動に大きく貢献しており、今回のセミナーも大きな成果が期待されている。

なお、今回は、青年部の企画により、青年部の手で運営されることになっており、青少年センター利用青年をはじめとし、ひろく一般青年に参加を呼びかけることにしている。参加費千五百円。

### 青年部、世界児童画展開催

青年部は、去る十月五日から二十三日まで、「第二回世界の児童画展」を開催した。これは世界の子どもたちが描いた絵を児童、生徒に見てもらい、日本以外の国に眼を開き、関心をもたせながら国際性を高め、同時に

に国際協力の精神を養うことの一助となれば——のねがいをもって行なったもの。

今回のこの催しには、長崎ユネスコ協会、日本ユネスコ協会連盟などの強力な協力のもとにインド、タイ、オーストラリアなど、各国からよせられた子どもの絵画、一〇六点を展示したが、どれもお国柄を示しているものばかりで、会場の広島市中央図書館展示ホールには連日、子どもたちに加えて、一般市民の姿が多く見られた。

青年部では、「世界の児童画を見る機会が広島市にはほとんどといていいぐらありませんで、今後も、毎年開催したい」と話している。

### 中国ブロック研究会開かる

昭和五十一年度中国ブロックユネスコ協会研究会が、去る十月二十三・二十四日の両日、松江市で開かれ、広島ユネスコ協会から、新川貞之常任理事、内海巖顧問、それに、永井会長夫人の三人が出席した。

この研究会は、地域における協会活動姿勢を明確にし、各協会間の連けいを強化することをねらいとし、地球文明と地域のきずなについて各地からの情報

交換、討議などをとおして、今後のユネスコ活動のあり方を深く研究した。

広島ユネスコ協会も、今後地域活動の充実を重点にしているところでもあり、この研究会の成果を生かして、より充実した活動を展開したいもの。

### 青年リーダー研修会に今村君を派遣

日本ユネスコ協会連盟は、来る十一月二十日から四日間、伊豆下田で、第一回青年ユネスコリーダー研修会を開く。

この研修会は、①ユネスコ理念から導き出される地域での具体的実践活動プログラムを作り出す能力を高める②ユネスコ活動領域における専門知識を身につけ、リーダーとしての指導力を高める——の二点を目的としており、当協会からは、青年部の今村信昭君を派遣する。

当協会の青年部は、こうした研修会に、毎年、数名の会員を派遣しており、その成果が着実にあがっていることはその活動ぶりにあらわれているところ。

この研修会は、昨年まで青年ユネスコ全国大会として行われていたもので、この種の研修会としては最も大きなものであるだけに、その成果が期待されている。

### 第一回論文・作文・ポスター入選者決まる

「世界の中のヒロシマ」をテーマに募集した第一回論文・作文・ポスターの入選者が決まった。これは一般を対象に論文、小・中・高校生を対象に作文、小・中学生を対象にポスターを、それぞれ募集したもので、広島ユネスコ協会とともに広島平和文化センター、世界連邦広島県教育者協議会、中国新聞社が共催して実施したもの。

◇論文 応募集二十七点  
特選 該当者なし 優秀 三  
点 八竹本景子(市内可部町) 古木義男(吹田市) 森合茂(呉市)  
▽ 佳作 九点  
◇作文 応募集二百九十七点  
特選 三点 八高校生該当者なし  
中学生 水上典子(己斐中)  
小学生 高学年該当者なし 小学  
生 中 西剛弘(本川小)  
小学生 低学年 中山みち(宇品  
小) 優秀 十二点 佳作 五  
十四点  
◇ポスター 応募集九百六十九  
点  
特選 四点 八中学生 大沢幸  
子(呉市昭和) 小学生 高学  
年 角本昌文(三篠小) 小学  
生 中 前迫善智(戸坂小)  
小学生 低学年 該当者なし 優  
秀 十一点 佳作 七十二点